

## マレーシア出張報告

原不二夫

3月16日から18日まで、マレーシア社会科学学会（Malaysian Social Science Association. 当方も永久会員になっている）主催でペナンのマレーシア理科大学（Universiti Sains Malaysia）で開かれた第7回国際マレーシア学会（7th International Malaysian Studies Conference）に出席し、18日の分科会では発表を行った。

統一課題は「重要な移行期：マレーシアにおける国家，市場，社会の再規定（Critical Transitions : Repositioning the State, Market and Society in Malaysia）」で、特定機関が組織した分科会が13、個人参加の分科会が30生まれ、合わせて166人が研究報告を行った。参加国は、マレーシア（地元の理科大学の他、マラヤ大、国民大=Universiti Kebangsaan Malaysia、サラワク大=Universiti Malaysia Sarawakからの参加が多かった）、シンガポール、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア、インドネシア、タイ、フィリピン、日本などのいわば常連の他、ドイツ、オランダ、デンマーク、台湾、韓国からの出席が目をつけた。とりわけドイツは10人ほどの大代表団で、ドイツにおけるマレーシア研究についての報告も行って同国における近年の東南アジアに対する関心の深まりを印象付けた。また、韓国は近年国内でマレーシアをはじめとする東南アジアについての研究会をたびたび開いているとのことで、同国が様々な形で東南アジアとの関係を深めていることがうかがえた。

発表のあった研究領域は、政治、選挙、宗教、種族関係、少数民族、歴史、家族・結婚、経済、中小企業、文化、環境、保健、都市化、教育・言語、報道機関と市民社会、国際関係、など極めて多岐にわたった。このうち当方が出席した分科会は、主に種族問題、言語教育、歴史問題などだった。興味深かったのは、華文小学校に通うマレー人児童の問題を扱った報告だった。マレーシアの教育法で華文学校はNational Type School（準国立）とされ、National School（国立）のマレー語小学校に比べて国家からの補助金ははるかに少ない。それでも近年マレー人児童が10～15%を占めるようになってきている。華文学校は教育水準が高く、また、ここで身につけた華語や人脈は卒業後の経済活動に有利に働くというのがその理由で、マレー人、華人の関係緊密化にも貢献していると肯定的な見方が一般的だったが、報告では当のマレー人児童の家庭生活や精神状態に不安要素をもたらしているとの指摘がなされた。その他では、北カリマンタン共産党の1963年から68年までの武装闘争を扱ったサラワクの大学院生の報告、戦前からの抗日救国運動の指導者で独立マラヤ最初の大蔵大臣とも

なった華人・李孝式（Tun Sir Lee Hau Sik）についてのマラヤ大学大学院生の報告も面白かった。因みに、今回の研究報告会では、マレーシア、シンガポールの大学院生の分科会がいくつか組まれていた。同じ分科会に英語の報告とマレー語の報告が混在しているものもいくつかあり、さすがマレーシアだと感心した。

当方は、マラヤ共産党とインドネシア共産党の協力関係について報告した。内容は、戦前から終戦直後におけるインドネシア共産党指導者のマラヤにおける左翼運動指導、マラヤ共産党員のインドネシア独立戦争参加、マラヤにおける非常事態宣言と抗英武装闘争開始（1968年6月）後のマラヤ共産党員のインドネシア潜行、マラヤ共産党の統一戦線組織・「マラヤ民族解放同盟」の駐インドネシア事務所の開設、活動、閉鎖、インドネシア共産党とインドネシア在留マラヤ共産党員との関係、などを論じたもの。後の会話で、研究者よりマレー人学生がマラヤ共産党やインドネシア共産党に関心を持っていることが意外だった。かつてのように共産党の研究そのものが危険視される時代は去り、同党の役割を客観的に位置付けようとする機運が生まれているように感じた。

日本のマレーシア研究についての報告もなされたが、日本人の研究は、英語やマレー語、あるいは少数ながら華語の著書、論文の背後におびただしい数の日本語の著作があることがほとんど知られていないのが、いささか残念に思われた。

クアラルンプールではマラヤ大学中国研究所（Institute of China Studies）に出向き、楊国慶（Yeoh Kok Kheng）所長、Lee Kam Hing教授と、マレーシア・中国関係の歴史と現状、マレーシアで中国政治に携わった人々の変容などについて、意見を交換した。クアラルンプールでは、併せて最近刊行された資料・文献を収集した。